# 概要



|  |  |
| --- | --- |
| 発明 | ンコッホ |
| 発明年 | 1809年 |
| 全長 | 70cm |
| 射程 | 1km |
| 火薬の量 | 23.8g |
| 火薬の物質 | ニトログリセリンを染み込ませたトリニトロトルエン |
| 着火方式 | 摩擦式 |
| 質量 | 6.2kg |
| 弾全長 | 16cm |
| 口径 | 55mm |

第二次世界大戦で開発・使用された。ンコッホが独自に開発した兵器。威力がとても高く防弾チョッキを10枚着ていても貫通してしまう。無防備な人間が喰らえば35人程貫通する。火薬と弾を入れればいいだけだから簡単に発射できる。ただし火薬の量がシビアで、これより多くても少なくても威力が下がってしまう。さらに天候によっても影響するので更に扱いづらいのだが、使用された地域は天候がほぼ一定の砂漠地帯なのでそこまで気にならなかった。火薬の量は0.1g単位で影響が出るため、ぴったり23.8gずつ出せる機械が開発された。現実世界でいうバズーカ的なもの。形状も似ている。発展途上国がたった3ヶ月（現実世界でいう約120日）で作り上げたのに完成度や質が高いため、ニヴルヘイムやショルテ3国も使っていた。先端部分にもニトログリセリンを入れた改良版が作られたが、取り扱いが難しく、射程距離に到達する前に爆発したりしたため一つ（試作品）しか作られなかった。

# 火薬取分器

|  |  |
| --- | --- |
| 質量 | 2.3kg |
| 容積 | 10.6L |
| 取分口 | 4つ |

第二次世界大戦で開発・使用された。ストロングランチャーの火薬を装填するための装置。火薬が出る口が4つあるため。4人グループで使っていた。分量は決められず、必ず23.8gである。口の上にボタンが付いていて、それを押すと23.8gの火薬が出る。無駄な機能が一切ない。